

# 稲作管理特報

令和4年7月8日  
入善産米品質向上対策本部  
黒東地域農業技術者協議会

コシヒカリの生育は、草丈がやや長め、m<sup>2</sup>当たり茎数がほぼ平年並み、葉色が淡めに推移しています。幼穂形成期は、5月10日頃の田植えで、7月8日頃と平年より4日ほど早まると見込まれます。

穂肥は、草丈・葉色・幼穂長などの生育状況を確認して的確に施用しましょう。

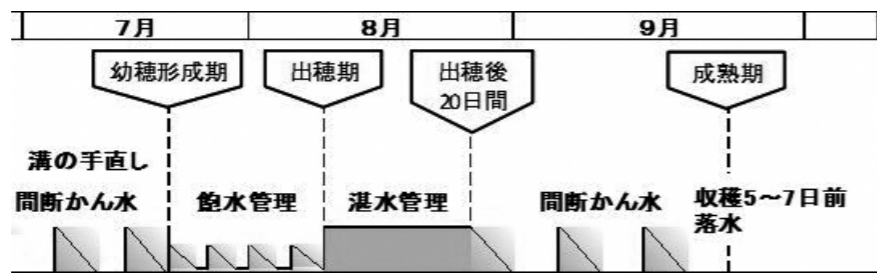
## 【コシヒカリの生育状況（みな穂管内）】

	田植日	6月28日					7月5日					幼穂形成期
		草丈 cm	茎数		葉齢	葉色	草丈 cm	茎数		葉齢	葉色	
			本/株	本/m <sup>2</sup>				本/株	本/m <sup>2</sup>			
R04	5/10	54.5	26.4	537	10.8	4.0	67.0	23.3	475	11.7	3.9	7/8
平年	5/12	51.0	24.8	504	10.5	4.2	60.8	24.3	494	11.4	4.1	7/12

## 1. これからの水管理・・・暑い時こそ水管理が重要！

- ①出穂期まで：飽水管理を徹底し、稲の活力維持に努めましょう。  
 ※飽水管理：常に足跡や溝に水が残るくらいの状態を保ち、根の活力と葉色の急激な低下を防止しましょう。  
 ただし、4日以上、水が滞っていたら落水する。
- ②出穂後：20日間は、田面が出ない程度の湛水管理を行いましょう。  
 ・水をためっぱなしにせず、定期的に水の入替えを行う。  
 ただし、かけ流しは絶対に行わない。  
 (例) 5日に一回程度入替え・・・地域の用水事情に応じて実施する
- ③湛水管理終了後～刈取り7日前まで：間断かん水で、稲の活力維持に努めましょう。

### ○今後の水管理



## 2. 斑点米カメムシ類対策・・・草刈りと適期の防除で斑点米の発生を防止！

- (1) 一斉草刈り後は、雑草の穂が出ないように管理しましょう。
  - (2) 草刈り時の農作業事故や熱中症に注意しましょう。
  - (3) 適期の防除で効果を高めましょう。
- 【コシヒカリの一斉防除予定については、後日、防除特報を発行します】  
 ※無人ヘリコプターでの防除をご利用の方には、後日折込みチラシなどで別途ご案内します。

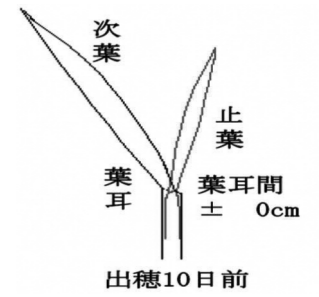
高温でも夏バテしないよう水管理をこまめに行いましょう！

## 3. コシヒカリの穂肥・・・1回目は慎重に！ 2回目は確実に！

### 【幼穂形成期の生育量の目安】

幼穂2ミリ確認時（7月8日頃）		
草丈	茎数	葉色
72 cm	470本/m <sup>2</sup>	3.8

▷止葉の抽出（葉耳間長）と出穂日の関係



### ▷幼穂長との関係

出穂前日数	22日前頃	20日前頃	15日前頃	10日前頃	7日前頃
幼穂長	2mm	5mm	1.5cm	10cm	13cm

### 【基肥一発肥料の場合】

穂揃期の葉色が淡いと、登熟期に高温となった場合、収量や品質が低下する恐れがあります。  
 ○出穂7日前（7月23日頃）に、葉色が4.0（洪積土3.8）未満の場合は、追肥3号で5～7kg/10a施用しましょう。

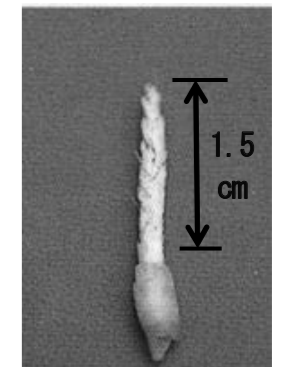
### 【分施肥体系（基肥206号）の場合】

- 1回目の穂肥は、必ずほ場ごとに幼穂長・草丈・葉色を確認して施用しましょう。
- 2回目の穂肥は、粒の肥大を良くし、米の品質低下を防ぐ効果があるため、確実に施用しましょう。

### <穂肥施用時の生育量の目安>

（幼穂形成期：7月8日頃 出穂期：7月30日頃）

穂肥	第1回目	第2回目
草丈	82 cm	-
時 節	幼穂長	1.5 cm
	葉色	3.6
施肥時期	7月15日～16日頃	1回目の7日後
肥料名	追肥3号	
施肥量	10kg/10a	12kg/10a



1回目穂肥施用時の幼穂

※1回目穂肥時の葉色が「3.8～4.0」のほ場では、施用時期を2～3日遅くするか、施肥量を7割程度に減らす。  
 ※葉色が「4.0」より濃いほ場では、1回目は施用しない。

## 地力増進作物を組み入れ、肥料コストの軽減を図りましょう。

- (例1) 水稲収穫後 → ヘアリーベッチ (10-3月) → 水稲 (4-9月) 基肥減肥 最大10割
  - (例2) 大麦跡 → クロタラリア (6-9月) → 水稲 (4-9月) 基肥減肥 最大5割
- 適切に実施されれば、地力増進作物の作付支援（5,000円以内/10a）があります。  
 詳しくは、営農指導員に問い合わせてください。

★JA みな穂営農情報メールを配信しています。  
 下のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

主な情報提供内容  
 ・水稲・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理  
 ・気象情報と災害防止の対策

